



AFI Silver Theater

# AIRP 参加報告

American Institute for Radiologic Pathology

山梨大学 放射線科 佐野勝廣

この度、私は日本放射線科専門医会・医会（JCR）のご支援を受け、2015年2月9日～3月6日までの4週間にわたり、AIRP（American Institute for Radiologic Pathology）のFour-week Radiologic Pathology Correlation Courseに参加させていただきましたので、研修報告をさせていただきます。

## AIRP について

AIRPはACR（American Congress of Radiology）を母体とする組織であり、このFour-week Radiologic Pathology Correlation Courseは2011年からAFIP（the Armed Forces Institute of Pathology）から引き継いでAIRPが主催しており、年間5回開催されます。今回私が参加したのは2月という極寒の時期でしたが、そんな寒い時期にも関わらず参加人数が300人を超えており満員に近い状態でした。人気の多い夏期は早めに募集が締め切られるようです。参加者の多くは北米の専門医を目指すresidentやfellowですが、見たところ北米以外からの参加者も意外と少なくない印象を受けました。今回は日本

からの参加者は残念ながら私一人だったと思います。

会場はWashington D.C.の中心から車で20分ほど北上した位置にあるMaryland州Silver Springという都市の中心部にあるAFI Silver Theaterという映画館で行われます。

基本的には放射線診断学を網羅する教育講演であり、日本でいうなら専門医会が毎年開催しているミッドサマーセミナー／ミッドウィンターセミナーに近いと思います。講師陣はAIRP専属医師やWashington D.C.やMaryland州などの近郊の大学や病院の医師などで構成されています。多くの先生は教育講演に慣れている様子で、ジョークやクイズ症例を交えながら上手に講演されていました。講義スライドは病理組織やイラストを駆使しており、とてもわかりやすく作られています。神経（頭頸部や脊髄含む）、胸部、乳腺、心大血管、消化器、泌尿生殖器、骨軟部、小児、核医学の9つの領域が設定されていますが、講義スケジュールは領域関係なく順番バラバラで、講師の都合などで決めているよ

うです。モダリティはCT, MRIのみならず, 超音波や単純X線, 核医学など多岐にわたります。1コマ45分の講義が月曜から金曜まで毎日9~10コマぎっしり組まれており, 朝8時から始まり夕方4時半過ぎまでかかります。全部で約200にも及ぶ講義を4週間かけて行います。土日は休みですが, 驚いたことに米国内における祝日でも講義が行われました。

### 事前準備 (参加登録, 宿泊予約, 症例登録等) について

コースの参加登録についてですが, 専門医会からフェローシップを受けているとはいえ, 特別なID等が用意されているわけではありません。AIRPのホームページから各自で申し込みを行います。現時点での参加費は, Resident/Fellow \$1,700, Non-Radiologist Resident/Fellow \$1,850, Practicing Physician (ACR Member) \$2,500, Practicing Physician (Nonmember) \$2,750の4種類でこの中から選択します。私のような日本の放射線診断専門医の場合は該当する項目がありません。Resident/Fellowでの申し込みには研修のコース名やコースの責任者名, コース開始年月日や終了予定年月日の入力が必要なので, 残念ながら私はPracticing Physicianでの申し込みにはせざるを得ませんでした。

ホームページには宿泊の案内もあります。会場近くの複数のホテルはAIRP参加者対象に1泊100ドルちょっとで宿泊可能となっており, 私はこれを利用しました。ただ, 実際参加者の滞在先は様々ようです。ホームページには他にもいろいろな宿泊案内を行っています。ホームステイの受け入れ先リス

トも掲載されていました。ホテルはホームページに掲載されているもののほかにも, 例えばWashington D.C. やBethesdaなど近郊都市からもメトロ(電車)やバスを利用すれば会場まで20~30分で着くので, 自分で探してもよいかもしれません。

参加申し込みが完了すると, 申し込み完了を告げるメールが届くのみで, 具体的な案内メールはコース開始の3カ月前から届き始めます。また, コースの参加者は病理診断の得られている症例をコース開始の1カ月前までに1例online登録する必要があります。この症例登録が意外と大変であり, 英文のCase Reportを出すようなものですので, 少し余裕をもって早めに登録開始した方がよいと思います。症例登録はAIRPのホームページから行います。具体的な方法はonline登録のページにも記載されていますが, 病歴のサマリ, 匿名化したDICOM画像, 肉眼病理写真(JPEG), 組織写真(JPEG), 画像診断報告書や病理診断報告書とそれらの英訳(個人情報部分を消す必要あり), 肉眼病理所見のサマリ, 組織所見のサマリ, 手術もしくは生検のサマリ, 文献を加えた疾患の考察が必要となります。さらに病理のvirtual slideのデータもしくはガラス標本そのもの, 病理医のサイン(指定されたフォーマットあり)が必要ですが, これらはonline登録ではなく, コース開始後1~2週目に提出します(コース開始後に提出日の案内あり)。病理や外科など他科の先生の協力が必要ですので, 症例を決めた段階で早期に相談しておくとうまいと思います。なお, 登録した症例が各領域のBest Caseに選ばされるとRadioGraphicsに掲載されるようです。

コースの1週間前になると, コースの専用ページ



会場内

のアドレスとパスワードの案内が届きます。また、この専用ページは iPad/iPhone のアプリにもなっております。その専用ページ/アプリでは、講義スケジュールや講師名などが確認でき、講義スライド/シラバスを PDF でダウンロードできるようになっています。この講義スライド/シラバスはコース開始時にすべて揃っているわけではなく、日々更新されていくので、定期的に確認した方が良いでしょう。

## 会場の様子など

AFI Silver Theater は比較的わかりやすい場所にあります。メトロ（電車）の Silver Spring Station から Colesville Road 沿いに北東へ歩いて5分もかかりません。初日はエントランスホールに受付がありました。受付で自分の名札と出席確認も兼ねている audience response keypad を受け取ります。また、AIRP のロゴの入ったタンブラーももらうことができます。エントランスホールには毎朝コーヒーやホットチョコレートなどの飲み物が用意されています。また、エントランスホールには出席確認用の大きなモニタが設置されており、画面内に出席者全員の名前がリストアップされています。初日に渡された audience response keypad で指定のボタンを押すと画面内の自分の名前部分の色が変わるシステムになっています。なお、出席確認は1日2回、午前と午後それぞれ行い、audience response keypad は最終日に返却します。

会場ホールはエントランスからすぐのところにあるので迷うことはありません。映画館なので椅子は座り心地は良いものの、両脇にドリンクホルダーがあるのみで机はありません。そのかわりにポータブルの lap desk が用意されていますが、あまり使う人はいませんでした。ほとんどの人は Note PC や iPad などのタブレットでシラバスを見たり、メモを入力しながら講義を聴くスタイルでした。また、会場内は比較的過ごしやすいものの、時々暖房が効いていないようで寒い日もありました。

お昼休みは基本的に1時間ですが、週に1度のペースで30分間の Case-Based Seminar が組み込まれていますので、実質30分の日もあります。お昼は初日のみランチが配られますが、2日目以降はありません。多くの人はどこか食事に出かけたりしますが、食べ物を買ってきて会場で食べる人もいますし、あらかじめパンやサンドイッチなどを用意してくる人

もいます。

コース中には何度か講義終了後の夕方に会場隣のスペースで party が設けられていますので、講師の先生や他の受講生と親睦を深めることもできます。

また、事務的な連絡や雪など悪天候等で休校になる緊急情報は随時メールで情報が送られてきますので、基本的に困ることはありません。さらにこれらの情報は iPad/iPhone のアプリや Facebook, Twitter などの SNS でも確認できます。

## その他

Silver Spring は比較的治安も良く過ごしやすいのですが、今回私は医局の都合等を考慮したとはいえ2月の一番寒い時期での参加であり、マイナス15℃という味わったことのない寒さも経験しました。AIRP に興味ある方はもう少し過ごしやすい時期に参加されることをお勧めします。

また、Washington D.C. にはスミソニアン博物館など観光名所がたくさんありますし、Chevy Chase の Friendship Heights には高級ブランド店も含めてたくさんの店が立ち並んでおり、買い物も楽しめます。Bethesda には N.I.H. がありますので、その近郊には多くの日本人研究者が住んでいます。メトロやバスが発達しており、これらの近郊都市へ行くにもあまり時間がかからないので、週末もそれなりに楽しめます。メトロやバスの路線図や時刻表などの情報はメトロのホームページから簡単に見ることができますし、メトロのアプリもあるので、それを利用するのも良いかもしれません。

## 最後に

今回私にこのような貴重な研修機会を与えてくださいました日本放射線科専門医会・医会の皆様、私を推薦して下さった大西洋教授、多くの貴重なアドバイスをくださった師匠の市川智章先生、私が長期不在のなか日常業務を支えてくださった山梨大学放射線科の先生方、また症例登録に快く協力をして下さった山梨大学病理部の中澤匡男先生と山梨大学第一外科の松田政徳先生、そして現地でお世話になった先生方に心より感謝申し上げます。

今回学んだ知識や教育方法などを今後の私の臨床・教育活動に取り入れ、最大限に活かしていこうと思います。